

南アフリカ・2010年サッカーW杯のシンポジウム開催

日韓W杯の経験を活かし、次回W杯成功と南ア観光需要拡大へ

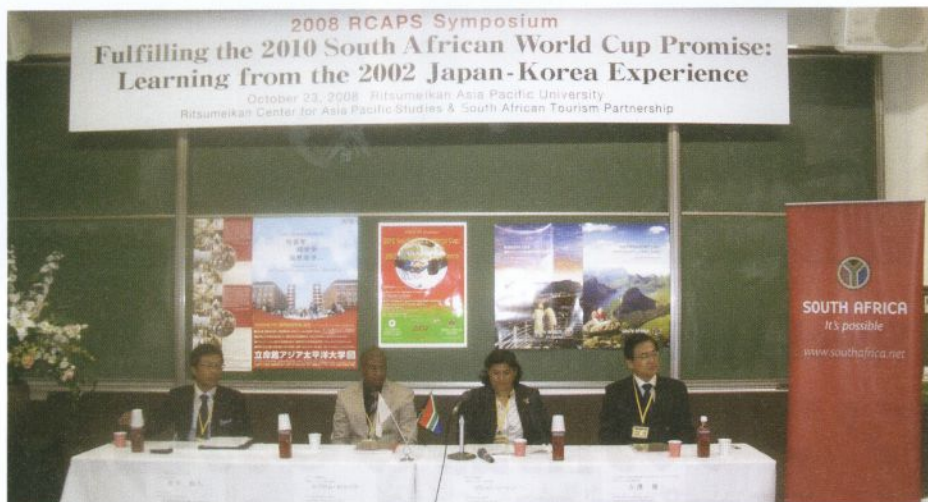
南アフリカ観光局と立命館アジア太平洋大学立命館アジア太平洋研究センター(RCAPS)はこのほど、2010年南アフリカW杯の成功に向けてのシンポジウムを開催した。当日は大使館、観光局、旅行会社、航空会社等により、密度の濃い情報交換が行われた。

関係者が一堂に会し、W杯へ提言

南アフリカ観光局と立命館アジア太平洋大学立命館アジア太平洋研究センター(RCAPS)は、10月23日、「Fulfilling the 2010 South African World Cup Promise: Learning from the 2002 Japan - Korea Experience (2002年日韓サッカーW杯の経験から学ぶ、2010年南アフリカW杯の成功に向けて)」と題するシンポジウムを開催した。これは02年に日韓で共催したFIFAサッカーワールドカップの経験を、10年の南アフリカ・サッカーW杯へ活かすことを目的に行われたもの。

立命館アジア太平洋大学(APU)では現在、世界81カ国・地域から約2600人の外国人留学生と約3200人の日本人学生が学んでいる。今回のシンポジウムは、南アフリカから来日して02年日韓共催FIFAサッカーW杯の開催実績を研究する留学生の提言から実現に至った。

シンポジウムには、大分県からは前大分県知事および2002年FIFAワールドカップ日本組織委員会の平松守彦副会長、駐日南アフリカ共和国大使館のグーラム・ダーウッド一等書記官、JATA(日本旅行業協会)南アフリカ旅行拡大ワーキング・グループ(JTBグループ本社国際部長)の古澤徹座長、南アフリカのムブマランガ州観光局兼パークスエージェンシーのエツロム・



シンポジウムに先立ち開催されたプレスカンファレンスの様子。右からJTB古澤氏、南アフリカ観光局シン氏、ムブマランガ州観光局セコベラ氏、エミレーツ航空田中氏

セコベラ最高マーケティング責任者代行、南アフリカ観光局からはロシェーン・シン最高マーケティング責任者(CMO)、エミレーツ航空会社の田中和久西日本支店支店長らが講演者として参加した。

平松氏は02年の日韓共催サッカーW杯の際に、自らが大分県知事として関わっていたW杯大分開催の取り組み、W杯開催後の大分県民の意識の変化について講演した。

古澤氏は、日本における南アフリカ観光の位置付けと、JATA南アフリカ旅行拡大ワーキング・グループの取り組みを紹介。現地の空港におけるロストバゲージ対応の経緯や、今後の南ア観光拡大のために日本の旅行業界が取り組むべき課題について解説した。

ムブマランガ州観光局のセコベラ氏は、09年6月に竣工予定のスタジアムを中心に現地の関連施設の進捗状況を報告。

田中氏は、エミレーツ航空が航空会社として初のサッカーW杯のスポンサーを務める経緯、同社がW杯を通して取り組んでいるマーケティングコミュニケーション戦略について紹介した。

イベントを通じ南ア需要拡大へ

ロシェーン・シン氏は、サッカーW杯開催によって南アにもたらされる経済効果は全世界からの渡航者数が1000万人、観光収入による経済効果が総額110億ランド(約1241億円)、そのうちW杯の観戦目的の渡航者数は45万人を見込んでいると発表した。「日本からの渡航者数は09年が3万5000人強を見込んでおり、今後10年以内に7万人に倍増できると確信している」(シン氏)。

日本における今後の活動については、JATAの南アフリカ旅行拡大ワーキング・グループとの協調を重要視しており、サッカーW杯の販売促進活動以外にも、“野生の花”をテーマとした通年の観光素材の掘り起こしへの着手などについて言及した。

サッカーW杯のような海外大型イベントが需要を牽引する効果は大きい。アフリカ大陸初のサッカーW杯開催が、南アフリカへの注目度を高め、確実な需要につながることを期待したい。(取材協力:南アフリカ観光局、立命館アジア太平洋大学立命館アジア太平洋研究センター)



南アフリカ観光局のブラッドリー・ブラウワー(左)と本局のロシェーン・シンCMO(右)



JATA世界旅行博の業界日に開催された「南部アフリカ・デスティネーション・セミナー」

Special Write-ups

アフリカ南部の6カ国が 共同プロモーション

オペレーター各社も南部アフリカへの取り組みを強化

JATA世界旅行博の業界日にアフリカ南部の6カ国が集い、「南部アフリカ・デスティネーション・セミナー」が開催された。「南部アフリカ」という枠組みで共同プロモーションを行うのは今回が初めて。今後が期待されるデスティネーションの動きに注目したい。

文 / 岩下智之 写真 / 中島奈緒子

南部アフリカで相乗効果を期待

「南部アフリカ・デスティネーション・セミナー」の仕掛け人は、南アフリカ航空の小野田豊日本地区支配人。「魅力のある6カ国が共同でプロモーションに取り組めば相乗効果を期待できる」と小野田氏は語る。2010年には南アフリカ共和国においてFIFAサッカーワールドカップが開催されるため、同エリアは注目のデスティネーションとして期待が高まっている。

レトは“天空の王国”の魅力をアピール

レト王国の在日大使館モケレ・ランティエ・リカテ特命全権大使は、「小さな国だが、国民の心は非常に大きい。一度来ると、二度、三度と来たくなくなる魅力がある」とレトを紹介する。

取材協力:南部アフリカ観光促進協議会(南アフリカ観光局、ジンバブエ大使館、ザンビア共和国大使館、レソト王国大使館、ボツワナ共和国大使館、タンザニア連合共和国大使館、南アフリカ航空)、クオニイジャパン株式会社、株式会社デスティネーションコンサルタンツ、株式会社トンブソン・ツアーズ、株式会社UTIジャパン、株式会社UTCジャパン

南部アフリカの内陸部に位置し、国土のほとんどが山岳地帯の同国は、“天空の王国”と呼ばれている。主要な観光素材はそびえ立つ山々と青く澄む空、深々とした渓谷とそこに流れる川を舞台としたアクティビティが中心。カヌーをはじめとするウォータースポーツや、乗馬、トレッキングなどのアウトドア、夏場は山頂でスキーを楽しむこともできる。

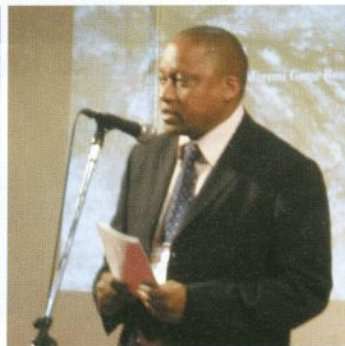
レトの国民性は勤勉かつフレンドリー。食事はアフリカ料理としてはマイルドで飽きがこない、と定評がある。宿泊施設は5つ星をはじめさまざまなレベルがあるが、同大使館の金森尚人通商・観光担当官はロッジを勧めている。

ボツワナは文化をテーマにPR

ボツワナ観光理事会のジョセフ・モツエ マーケティングサービスマネージャーは、「文化体験や文化交流など、今後は文化をテーマとした観光素材のPRにも力を入れたい」と語る。ここ数年、同国への日本人渡航者数は増加傾向にあり、今年は10%の伸びを期待。日本市場ではチョベ国立公園、オカバンゴのサファリなど野生動物をテーマとした観光素材が好評だ。



レントのリカテ特命全権大使

南アフリカ観光局の
ブラッドリー・ブラウワー日本地区代表

真剣に耳を傾けるセミナー参加者たち

オペレーター各社の取り組み

現地の観光素材に最も精通しているのがツアーオペレーター。南部アフリカのマーケットでは、経験豊富で独自のノウハウを持つツアーオペレーター各社が活躍している。懸案のビクトリアフォールズ対策や、10年に開催される南アフリカFIFAサッカーワールドカップへの対応を含めて、代表的なツアーオペレーター各社の取り組みについて紹介したい。



◎クオニイジャパン株式会社

スイスに本社を置く世界規模のオペレーター。近年、日本でのアフリカ方面への取り組みを本格化させ営業部内にグローバルセールス部門（担当：小池純一氏）を設置。アフリカ南部はケープタウンとナミビアに設置された自社オフィスを中心に取り組む。ワールドトラベルアワード10年連続受賞のオペレーターだけにインセンティブ等の手配には定評がある。アフリカ南部の歴史、大自然、グルメ等を組み合わせた企画・提案に力を入れている。（TEL:03-5759-4500）

◎株式会社デスティネーションコンサルタンツ

1996年に設立された旅行手配会社。当初はアフリカ諸国と中近東にネットワークを広げるA&Kの代理店としてスタートしたが、「現在は手配の幅を広げ、それぞれのデスティネーションにおいて一番進んだ現地手配会社をパートナーとして取り組んでいる」（永盛雄一郎代表取締役）。ビクトリアフォールズ需要には、ザンビア側のリビングストーン付近にA&Kが購入した高級ロッジを活かしたFIT対応に意欲的に取り組んでいる。（TEL:03-3433-1791）

◎株式会社トンプソン・ツアーズ

アフリカで唯一、幾度も最優秀ツアーオペレーターに選ばれている南部アフリカ最大級のツアーオペレーターであり、最大級のIATAエージェント兼ホールセラー。本社は南アフリカのヨハネスブルグ。世界に広がるトンプソングループ企業の連携で、豊富な経験を活かした丁寧なオペレーションでクライアントのリクエストに対応し、南部アフリカを中心としたアフリカ全域および中南米の達人として手配を行っている。

（TEL:03-5405-7419）

◎株式会社UTIジャパン

アフリカ地域、インド洋、オセアニア、南太平洋、アラブ首長国連邦のリーディングオペレーター。アフリカ地域ではパッケージ、FIT、団体など幅広く対応しており、団体では1000人規模の手配経験も豊富。特殊団体など難易度の高い手配にも定評がある。「テラーメードでノウハウが必要な旅の演出には、顧客から高い満足度をいただいている」（上野一宣取締役営業本部長）。仕入れの強さや万全な受け入れ態勢もセールスポイントのひとつ。

（TEL:03-3359-2390）

◎株式会社UTCジャパン

南アフリカ最大級の旅行企業グループ、テベツურიズム（THEBE TOURISM）傘下のアフリカのスペシャリスト。安東勇朗日本地区支配人は「ビクトリアフォールズへの需要を支えるため、ザンビア側のリビングストーンをベースとした企画と手配を強化した」と語る。10年の南ア・サッカーW杯対策については、「親会社の仕入れネットワークを活かしたチケット手配には自信がある。ホテルの仕入れもすでに開始している」と余念がない。

（TEL:03-3455-0374）